114 誌上発表　『類説』に見える医経の引用について

橋本　典子
日本鍼灸研究会

『類説』60巻は，宋の道教学者・曾慥（?～1155年）が南宋・紹興6年（1136年）に編纂した類書である．要語について，253種の書籍から人物伝，歴史，通俗，医学，説話集などを集録し，簡潔に説明している．典拠となった書物はすべて漢代以降のもので，その中に医経（『内経』『難経』）が含まれている．以下，『類説』に見える医経経文を調査し報告する．底本として，『類説』は明・天啓6年（1626年）岳鐘秀校刊本，『素問』は顧従徳本，『難経』は慶安本と濯纓堂本を使用した．

『類説』における『内経』（目録は「内史」に作る），『難経』からの引用は，37巻冒頭部から20葉表七行目に至る範囲に見られる．『内経』はすべて『素問』からの引用である．要語数（丸括弧内）を所出箇所と合わせて引用順に並べると，序（2），上古天真論第一（2），四気調神大論第二（2），生気通天論第三（4），金匱真言論第四（1），陰陽応象大論第五（6），陰陽別論第七（1），霊蘭秘典論第八（1），六節蔵象論第九（1），五蔵生成篇第十（2），陰陽応象大論第五（2），五蔵別論篇第十一（2），脈要精微論第十七（5），平人気象論第十八（11），玉機真蔵論第十九（2），経脈別論第二十一（1），宣明五気篇第二十三（8），通評虚実論第二十八（1），評熱病論第三十三（1），挙痛論第三十九（1），厥論第四十五（1），病能論第四十六（1），奇病論第四十七（1），刺志論第五十三（1），鍼解篇第五十四（1），皮部論第五十六（1），調経論第六十二（1），至真要大論第七十四（1），気穴論第五十八（1），典拠不明（1），通評虚実論第二十八（1），三部九候論第二十（1），太陰陽明論第二十九（1），腹中論第四十（1）で，都合70語である．『難経』は一難，三難，六難，九難，十四難，十五難と五十三難，五十四難，七十七難，五十八難，六十難に各1語ずつ，都合10語である．採録された要語は概ね典拠の篇次の順に配列されている．『内経』では多くが陰陽（天地，虚実，寒熱，天癸），五行（五臓六腑，五味，五液など）に関する引用で，経絡や運気は引かれていない．『難経』では脈診（動脈，四時脈，死脈など）に関する引用が半数を占めている．

次に，『類説』引用経文と原文との校勘結果を以下に列記する．所出箇所の表記は『類説』に準拠し，原文から『類説』への変化を矢印（→は相違，⇔は転倒）で表す．『内経』:「平旦気」37-04a03～06〈三→二〉，「四時之気更傷五蔵」37-04a07～b02〈上→冬〉，「病腫」37-05a04～06〈動→痛〉，「四時五行五臓五気」37-05a07～b04〈益→暴〉，「耳目手足」37-05b05～06a01〈并於→故，明→盛〉，「診脈」37-06a06～b02〈生→在〉，「配天象地」37-07b08～08a01〈賢→真〉，「四変之動」37-09b07～10a01〈矩⇔規〉，「脱血」37-10a09～b02〈佈→併〉，「平心脈」37-11a03～07〈心平→平心〉，「百病生於気」37-14b01～04〈同→動〉，「寒熱」37-14b05～07〈なし→厥〉，「分肉谿谷」37-16a08～b05〈得→能〉，「三部九候」37-17a05～06〈人→脈〉，「脾四時寄治」37-17a07～09〈央→安〉，『難経』:「陰陽虚実」37-18a07～b01〈陰盛陽虚⇔陽盛陰虚〉，「死脈」37-18b05～07〈慶安本では「也」なし．濯纓堂本では「也」あり．〉，「臓病難治腑病易治」37-19a07～09〈何謂也→何也〉，「治未病」37-19b01～05〈何謂也→何也〉で，『内経』では15ヶ所，『難経』では4ヶ所の異同が見られた．

以上より，『類説』は校勘の一助となる資料であり，書中の引用条文から宋代類書における医経援用の実態が判明した．